



JAきたみらい

CSRレポート 2019



きたみらい農業協同組合

〒090-0813 北海道北見市中ノ島町1丁目1番8号
TEL:0157-32-8777(代表) FAX:0157-32-8778
<http://www.jakitamirai.or.jp>



シンボルマーク

日照時間が長いJAきたみらいの空に燦々と輝く太陽と大雪の山々からオホーツク海にそそぐ常呂川とJAが歩むべき道を表現しました。
太陽の光を構成する8つの楕円は、8地区が力を合わせ発展していく様を表しています。

編集方針

本レポートは、持続可能な社会へ向けて、JAきたみらいが事業活動を通じてどのような役割を果たしていくのかを考え、その果たすべき役割と取組みについて報告しています。
組合の紹介も兼ね備えたコミュニケーションツールとして、今後も、ステークホルダー(利害関係者)の皆様にご適切で透明性の高い情報をお伝えして参ります。

対象読者

JAきたみらいにかかわる、あらゆるステークホルダー(利害関係者)を対象読者としています。

対象期間

2018年(2018年2月1日～2019年1月31日)の実績ですが、活動や取組み内容は過去に遡った情報も掲載しています。
また、最新の情報をお伝えするために、直近の情報も一部紹介しています。

問い合わせ先

きたみらい農業協同組合 総務企画部 企画人事グループ
TEL:0157-32-8782 FAX:0157-32-8778

発行情報

発行日:2019年6月
次回:2020年6月(前回2018年6月)

JAきたみらい CSRレポート CONTENTS

JAきたみらいCSRレポート2019について	1
1. トップメッセージ	4
2. 特集	
「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」	5
特集 1 力強い農業のために	7
特集 2 魅力ある地域のために	9
きたみらいの出向くサポート	11
3. コミュニケーション	13
4. よりよい環境をつくる	15
5. CSR経営の基盤	17
6. 人“財”づくり	19
7. 組織概要	21
8. JAきたみらいの事業	23
9. 第三者意見	26



「組合員とともに、

組合員による、組合員のため」の

地域に貢献する

「魅力あるJA、選ばれるJA」を目指します。

J A 綱 領

わたしたちは、

1. 地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
1. 環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
1. JAへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
1. 自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JAを健全に経営し信頼を高めよう。
1. 協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

経 営 理 念

1. 私たちは、

- 「全ては組合員のため」という奉仕精神のもと、多様化する組合員ニーズに的確に応え、その健全経営の手助けを行います。
1. 私たちは、組織・事業活動を通じて、組合員、利用者、地域から信頼される人材づくりに努めます。
 1. 私たちは、食と緑を守り、地域農業を振興することで、地域社会の活性化を図ります。

経 営 信 条

組合員との信頼関係構築の第一歩は、現場に出向き、現場とのコミュニケーション活動を通じて現場を知ることにあります。

事業運営方針

1. 市場原理の選択競争の中でも、生き残っていける強固な事業運営方式を確立します。
1. 民主的運営を基本に組合員への公正・公平な メリットの還元を追求します。
1. リスクを見極めながら、新たな事業運営に積極果敢に挑戦する 自己決定・自己完結型の経営を目指します。

T O P M E S S A G E



きたみらい農業協同組合
代表理事組合長
西 川 孝 範

皆様方には、日頃より当JAきたみらいの事業につきまして、多大なるご協力・ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

JAきたみらいは、平成15年に8つのJAが合併して誕生した組織で、北見盆地の輝かしい未来を願い「北見(きたみ)」と「未来(みらい)」をあわせ『きたみらい』と名づけられました。当地区の農業は、玉ねぎ・じゃがいもを中心に麦類、てん菜、豆類、水稲などの耕種作物に加え、生乳をはじめとする畜産物を多様に生産しているのが特徴で、その販売高は全道ではもちろんのこと、全国でも有数の取扱いとなっております。

平成30年度につきましては、9月6日の北海道胆振東部地震により発生した全道的な大停電「ブラックアウト」の影響から酪農家の搾乳作業が滞る場面にも遭遇しましたが、地域の畑作農家等から自家発電機を融通していただき、地元電気関係業者の皆様が昼夜を問わず設置作業にご尽力いただいたこともあいまって、搾乳作業を早い段階で再開することができましたことは、協同組合の精神がいかんなく発揮された賜物であり、快くご対応頂いた組合員の皆様、ご協力頂いた関係各位に対し厚く感謝と御礼を申し上げます。

さて、農業・農協を取り巻く情勢において、先行き不透明感が増大する変化の中にあります。

国際貿易交渉の状況については、今後の日米物品貿易協定(TAG)交渉において、米国側から過去の経済連携協定で合意した以上の関税引き下げを求められる懸念があり、農業への直接的な影響のみならず、製造業をはじめとする様々な関連産業、ひいては地域経済へも広く影響が及ぶことも想定されます。

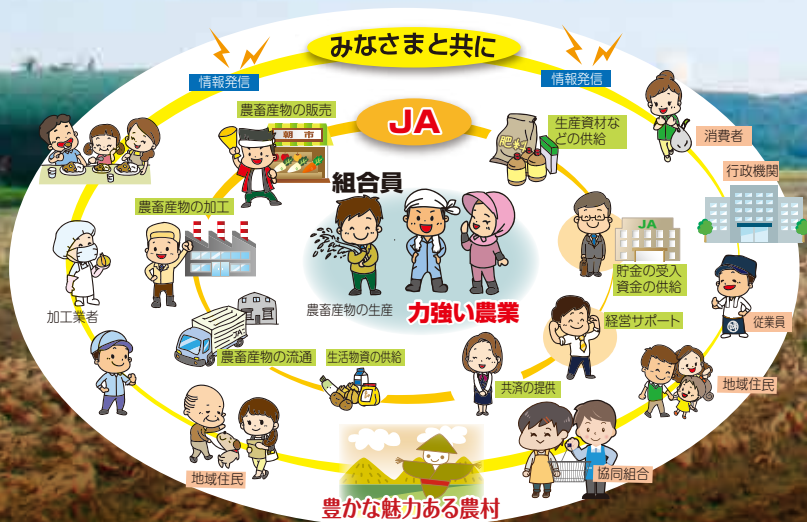
また、農協改革については、その主要な目的である法改正と農業所得向上との関連性などの理解が十分に進まない中、地域住民の生活にも影響を与えかねない准組合員制度のあり方などについて今後の検討課題となっております。地域を共に支えるJAの准組合員、利用者の皆様のご意見も踏まえながら、関連する取り組みを推進して参ります。

そのような中、JAグループ北海道では「北海道550万人と共に創る力強い農業と豊かな魅力ある農村」の実現を基本目標として、平成27年11月より継続的に取り組んでおります。当JAにおいては、組合員・組合員家族・役職員が各役割を再確認した中で、JAグループ北海道の英知を結集し、基本目標の達成に向け取り組んでいくとともに、北海道550万人から信頼され、ともに歩んでいくJAを目指します。

さらに、近年、異常気象が頻発する傾向があることから、気象変動に負けない農業の確立にむけて、土地改良・技術導入等、種々の対策に取り組み、また収量・品質の安定化のため、輪作体系の再構築によって農業経営の安定、所得の向上を目指します。

これからも、JAきたみらいでは、全国の消費者の皆様へ「安全・安心」な農畜産物を安定的に供給することにより社会的責任を果たして参ります。そのためにも、組合員をはじめ青年部・女性部・フレッシュミズ・役員・職員が、JAの課題を共有し、課題解決に向けて共通認識を図り、人づくり基本方針の実践に向け、組織全体として協同組合活動の取り組みを強化して参ります。

また、信頼される組織作りを目指し、法令、企業倫理の遵守を強化するため、コンプライアンス推進と整備を進めるとともに、コーポレート・ガバナンス体制のさらなる強化、組合員・消費者の満足度向上、CSRや社会貢献活動の推進、人材育成の一層の充実などに継続して取り組んで参ります。



地域と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」

持続可能な力強い農業・心の豊かさと誇りを実感できる魅力ある農村のために、安全・安心な農畜産物を安定供給するJAグループの使命を、将来に亘って果たしていく

食と農でつながるサポーターづくり

北海道の食(道産農畜産物やその加工品)や農(農業、農村、農家)を応援し、JAの事業利用や組織活動に関わりを持って、共に参加・行動していただける仲間を「サポーター」と呼び、サポーター550万人づくりを全道展開し、国民的合意・期待のもと日本の食料基地「北海道」としての役割を果たします。

1 安全・安心・美味しい道産農畜産物やその加工品を優先して安定的に購入していただける仲間

「食べる」サポーター



地域や全国のイベントに出店



きたみらいの商品が買えるオンラインショップ



店頭に並ぶきたみらいの加工品

JAきたみらいを選んで食べていただけるように、道内だけでなく道外での販売促進活動や地域のイベントに出店しています。JAだけでなく生産者の方も一緒に取り組んでいます。

2 JAの事業・施設を利用していただける仲間

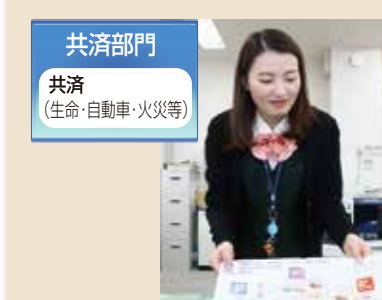
「利用する」サポーター



生産資材 地域住民への園芸市の開催



燃料 ガソリンスタンド、灯油の定期配送



共済部門 共済 (生命・自動車・火災等)



金融部門 貯金・融資・年金



自動車 自動車販売、整備

JAの事業は農家組合員の方だけでなく、地域の様々な方にもご利用いただいております。

3 JAグループ北海道と様々な媒体・活動を通じて交流していただける仲間

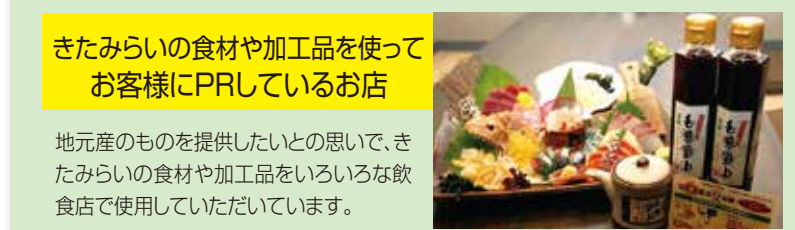
「参加する」サポーター



親子体験

農家体験

地域住民が親子で参加する収穫体験等を行っています。



きたみらいの食材や加工品を使ってお客様にPRしているお店

地元産のものを提供したいとの思いで、きたみらいの食材や加工品をいろいろな飲食店で使用していただいています。

JAでは、農業を知り興味を持ってもらうために様々な活動を行っています。

4 JAグループ北海道と食と農で強くつながり、ともに行動していただける仲間

「行動する」サポーター



特産の玉ねぎを全国へ運ぶJRコンテナ



イラストできたみらいの農畜産物をPRしているトレーラー



たくさんの人の手を経て皆様のもとへ運ばれていく農畜産物

私たちJAだけでなく、いろいろな企業の力が合わさって、生産物を全国に発信しています。

農業・JAと何らかの形でつながりサポーターの価値観を共有できる仲間

「関係・交流する」サポーター

道外実習受け入れ

姉妹都市である高知県からの学生の農業実習生の受入を行っています。

facebook

毎週きたみらいの情報を発信しています。コメントをしてくれる方が増え、たくさんの応援メッセージが届いています。





力強い農業のために

消費者の皆様が笑顔になるよう、おいしい農畜産物をいつでもお届けすること、それが私たちの使命です。
私たちJAは組合員とともに、信頼される“力強い地域農業”の創造に取り組んでいます。

作物別部会の取り組み

選ばれる産地を目指して安全・安心で高品質な農畜産物をつくるために生産者自らが協議をして、ルールを作り生産者全員でルールに沿った肥培管理、出荷体制に取り組んでいます。

JAは各生産組織の事務局として、予算管理はもちろん、組織活動に関する事務作業や会議等で各生産組織の構成員である生産者の皆さんと一体になって活動を行っています。

作物の生産にあたってのルールづくり

同じ作物を作る仲間が集まって、その作物に関する栽培技術などJAや普及センターと一体となって、学習会や畑などの現地で講習会を開催したり、それぞれの生産者の畑やハウスを巡回し、生育の確認を行ったり、収量の調査を行うなど、高品質・高収量の生産を目指し、生産者間でも切磋琢磨しています。



高品質・高収量・安定供給を目指した取り組み

産地の責任として消費者の皆様にも農畜産物を安定的に供給することが求められています。そのためには、玉ねぎなどでは、早生や中生、晩生などの品種を組み合わせることで、長い期間消費者の皆様にも供給出来るよう工夫しています。



より信頼される産地に向けて

生産者自らが都府県の市場や量販店に出向き、直接自分たちが作った生産物の価値を伝え、また消費者の皆様への生の声に触れることで、「求められることに応えていく」信頼される産地に向けた取り組みを行っています。



所得向上に向けた取り組み

1 販売力の強化

当JAでは、安心安全な農産物を安定的に消費者の皆様へお届け出来るよう、販売力の強化に繋がる施設整備を計画的に進めております。

平成19年度に小麦乾燥調製貯蔵施設、平成24年度に馬鈴しょ集出荷選別施設が竣工し、農産物の品質維持と安定供給に貢献しております。



また、本年は玉ねぎ集出荷選別施設の竣工と昨年建設した冷蔵貯蔵施設の本格稼働から供給アイテムと処理能力の拡大、供給期間の延長の実現により、ユーザーニーズに即応可能なフレキシブルな販売の強化を目指しています。

2 国外への輸出

人口減少時代を迎え、輸入農畜産物との競争が強まる可能性から、農業所得向上のために、国民への安定的な供給を前提としながら、国外への輸出に取り組んでいくことも求められています。



当JAは玉ねぎについて、国内需給調整の観点から道内のJAと連携し台湾を中心に輸出を行っております。また、極東ロシア向けへの輸出は北見市や市内企業と連携し輸出を行っており、現地で需要の高い小玉(S規格)を平成30年度に120トン実施し、更に販売チャネルや消費者ニーズの開拓を進める計画です。

3 きたみらいブランドの確立と付加価値の向上

2009年より加工商品の開発・販売の専門部署を設置し、きたみらいブランドの確立と農畜産物のさらなる付加価値化による所得向上を目指し、店舗販売やインターネット販売を実施しております。加工商品はこれまで24の商品を開発して販売推進に取り組み、その売上高は約1億円近くとなっております。

また、地元菓子店とのコラボ商品の販売や、小ロット販売(玉ねぎの10kg段ボール規格)などマーケットインを意識した販売戦略に取り組んでいます。

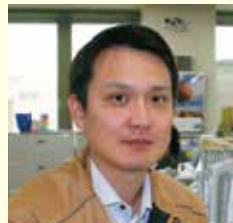


4 効率効果的な事業展開によるコスト低減

当JAは合併当初から地域の融合と合併メリットの追求を目指して様々な角度から経営改革を実践しています。

農業経営の面では、スケールメリットを最大限発揮しうる施設の再編・集約を実施し、コスト低減肥料の推進、玉ねぎ段ボールのフラップ(ふた)の改良によるコストカットなど、コスト削減に努めております。

JA経営の面では、「経営資源の選択と集中」の観点から業務の再編を行っています。



須河 秋久(すかわ あきひさ)
平成15年入組
販売企画部玉ねぎグループ兼
馬鈴しょグループ主査
Ecoみらい ECO玉葱部会
ECO馬鈴薯部会

業務について

きたみらい独自ブランドEcoみらいや農林水産省新ガイドラインによる特別栽培、北のクリーン農産物表示制度(イエスクリーン)により栽培された玉ねぎ・馬鈴しょの販売担当として、組織事務局や販売計画・販売促進等に取り組んでいます。

担当職員の一人として

生産者の営農とJA各部署のサポート等により栽培された生産物を販売するにあたり、生産者安定収入確保を目指し、消費地ニーズや需給動向を的確に把握し有利販売を行うことに努めています。

当年産の有利販売を実践することに加え、食を取り巻く環境変化や、産地・消費地の将来予測を踏まえた販売・組織対応等を行うことで、世代が変わっても消費者に「選ばれる産地・求められる産地」であるよう意識し日々の業務に取り組んでいます。

特集
2

魅力ある地域のために

よりよい社会・地域の創造に向けて

食の大切さを伝える

地元農畜産物を子どもたちへ

地元農畜産物に親しんでもらう食農教育の一環として、北見市、訓子府町、置戸町の1市2町へ地元産の玉ねぎとじゃがいもを送っています。送られた玉ねぎとじゃがいもは、食農教育パンフレット「玉ねぎちゃんとじゃがいもくん」とともに、保育園や小学校の給食用として子どもたちに届けられています。

また、JA名に「みらい」を冠したJAのつながりで、JA津軽みらい地域の子どもたちにも、じゃがいも・玉ねぎを送りました。JA津軽みらいからは、美味しいうどんが届けられ、北見地域の小学校や保育園へプレゼントされました。

安全・安心な地元食材を使った「給食のコロッケ」



原材料は全て北海道産で、添加物不使用、アレルギーを極力減らしたコロッケを開発し、地域の学校給食で提供されています。

子どもたちに安全・安心で、おいしい地域の食を味わってもらうために地元の栄養士の方や組合員の女性組織の意見を反映し、開発しています。



行政と一体となった農業振興

1市2町の首長、共済組合、普及センター、JA等で構成されている「北見地区農業振興連絡協議会」があり、農業者のための農業技術研修や担い手対策への支援、地域の方々に対して地産地消の取り組みや食育の取り組みに対する支援を地域全体で行うために協議・活動をしています。

北見地区農業振興連絡協議会

北見市・訓子府町・置戸町・オホーツク農業共済組合・JAきたみらい

担い手・地域振興・情報部会

農業・技術部会

畜産部会

農業の魅力を伝えたい

未来を担う子どもたちに第1次産業である農業の重要性や食の大切さを理解してもらい、関心を深めてもらうため、植付けから収穫、食べるまでを実際に行う栽培体験活動や親子で参加する農業体験見歩きツアーなどを開催しています。

このようなイベントを通じて、食や農業に対してより興味を持ち「将来農業をしてみたい、食に関わる仕事がしたい」と思ってもらえるように願っています。



一市二町の小学校に教材本を贈呈

私たちの生活に欠かせない「食」と「農業」、また「環境」と「農業」の密接な関係を意識してもらい、農業への理解を深めるきっかけになることを願い補助教材本を作成し、全国のJAバンクから小学校へ贈呈されています。



農村地域ならではの魅力

農家・組合員の方々のコミュニティ



農家の経営者の方、後継者の方、またそのパートナーの方などそれぞれのコミュニティがあり、積極的に活動しています。

農業技術を学ぶために視察研修や技術研修、農業情勢に対する学習会など様々な研修を行っています。また、運動会や料理教室などの行事で交流をしています。これらの活動を通して、生産者同士がつながり、農業の振興とより良い地域づくりに貢献しています。

地元住民とのつながり

～作る人と食べる人との距離が近い～

作る人（生産者）と食べる人（消費者）との距離が近く、収穫祭や地産地消祭りははじめ、いろいろなお祭りが各地域で行われています。催しには、地域の方もたくさん訪れ、大いに盛り上がるイベントとなっています。最近では、行政と一体となってハロウィンイベント等の季節のイベントにも積極的に参加しています。

また、農業者の方が小学校での農業体験を行う「出前授業」や、地元のお祭りへの参画をしています。



業務について

JAの担い手組織である青年部や女性部の部員満足度向上、主体的な活動実施に向けた支援やサポートをするため日々業務に取り組んでいます。

また、地域の方に農業のサポーターとなってもらう為、広報誌を通じた情報発信や市内小学校を中心に食農教育活動を行っています。

担当職員の一人として

私たち担い手グループ職員は、食農教育活動や事務局業務、広報活動の取材など対外的に人と接することが多い部門です。

どのような業務をするにもまずは、相手との信頼関係を築くことが第一歩であると思います。そのためには相手が何を考えていて、何を求めているのかを常に意識し、行動することが大切です。これからも、「全ては組合員のため」という奉仕精神のもと、丁寧迅速に業務に取り組んでいきます。



菊池 光祐（きくち こうすけ）
平成28年 入組
営農振興部担い手グループ
青年部・女性部事務局

力強い農業、魅力ある農村に向けて きたみらいの 出向くサポート

営農指導部門《経営支援部 ふれあい相談グループ》 畜産部 畜産相談グループ



黒田 佳子(くろだ けいこ)
平成25年 入組
経営支援部
ふれあい相談南グループ主任
訓子府地区担当

日々の日常業務について

- ・生産技術指導
- ・経営相談
- ・一年間の営農サイクルに応じて、組合員の一番近くで幅広いサポートを行う

サポート職員の一人として

私はふれあい相談グループの業務を行うにあたって、組合員との信頼関係を構築することが重要であると思っています。

「相談して良かったよ」と言われることが嬉しく、組合員のために力になれたと仕事にやりがいを感じます。

私達ふれあい相談グループ職員は組合員が何を考えているのか、何を必要としているのかを常に考え、組合員の営農と生活に寄り添って、「出向く営農」としてサポートをしています。

組合員との絆を強めるために、技術相談並びに総合的経営相談機能の充実と出向く営農の継続実践により組合員満足度・信頼度の更なる向上を目指しています。一年間の営農サイクルに応じた生産技術、経営管理の相談に対応し、最新の情報提供等、各部署と連携してあらゆる面で生産のサポートをしています。

また、地域との共生を目指し、地域行事などを通して地域とそこに居住する組合員との交流も深めている部門です。



営農支援システムで効率のよいサポート

当システムは(株)JA北海道情報センターの協力を得ながら、JAきたみらいが全道のモデル農協となり開発したシステムです。より充実した組合員へのサポートを行うため、組合員の生産に関わる様々な情報を一元化し、タブレット端末等で検索することができるシステムです。組合員の方々に対する迅速な情報提供とともに営農指導のさらなる充実に大きく貢献しています。

購買部門《資材推進グループ》



高橋 尚大(たかはし なおひろ)
平成28年 入組
購買部資材推進グループ
端野地区耕種担当

日々の日常業務について

- ・肥料・農薬を中心とした推進業務
- ・低コスト資材や組合員の方々の実情に合わせた資材の提案
- ・各種資材の取り纏め等
- ・正確な資材情報の提供

サポート職員の一人として

組合員の皆様のもとへ足を運び、資材に関する様々な意見や要望を、日々のコミュニケーションの中から、多角的な視点で把握できるように心掛けています。現場の実情を把握した上で、資材職員として最大限のサポートに努めています。また様々な情報が飛び交う中で正確な資材情報の提供を行うとともにコスト低減につながる資材や優位性のある資材の提案にも努めています。『組合員のために』という強い信念を持ち、今後の推進業務の中でより一層の信頼関係を構築し、JA利用率の向上に努めます。



各種資材の取り纏め購買を中心とした供給を行っています。

農薬や肥料、飼料の知識を持った職員が専門推進員として、組合員に商品などの情報を提供し組合員の資材コスト低減や「出向く購買」の継続実践による栽培技術や資材情報、配送サービスを提供しています。

推進にあたっては、ただ農薬などを提供するのではなく、その圃場に合ったより良いものを提案する指導購買を実施することで生産コストの低減にも貢献しています。

金融共済部門《総合渉外課》



嘉山 望(かやま のぞみ)
平成27年 入組
金融共済部
本店総合渉外課主任
置戸地区、北見市一部地域

日々の日常業務について

- ・金融推進業務
- ・JA共済推進
- ・農協口座での公的年金受給推進
- ・インターネットバンキングとJAクレジットカードの推進

サポート職員の一人として

組合員の皆様を取り巻く、様々なリスクや不安に備える共済や貯金の推進業務をしています。JA共済は様々なライフステージで困った時に役に立つ分、普段はあまり意識されることのないものですので、仕組みが変わった時や新商品が出る際は積極的に情報発信をしています。

「農協だから」という理由だけで漫然と契約してもらうのではなく、提案するものの特徴や、その方の要望や必要性に応えるものを選んでもらえるように仕事に取り組んでいます。



共済・年金・融資などの総合的な提案の窓口として推進業務を行っています。地域の方の暮らしのサポートを意識した、地域住民への戸別訪問活動を軸に、より広い顧客層へライフステージに合わせた普及推進を行っており、今まで以上に地域の方々のサポート活動を行っています。



きたみらい 地域の人たち

つながりをつくる
コミュニケーション

組合員、地域・全国の消費者 とのつながりを大切に

私たちは、組合員や地域の皆様とともに歩み、人との結びつきを大切にしています。そして、全国の皆様との絆を大切に、温かい関係づくりをめざします。



全国につながる“みらい”のきずな JAみらいサミット



全国に「みらい」を冠する8つのJA（JA津軽みらい(青森県)、JAふくしま未来(福島県)、JA新潟みらい(新潟県)、JA千葉みらい(千葉県)、JA東京みらい(東京都)、JA兵庫みらい(兵庫県)、JA鹿児島みらい(鹿児島県)、JAきたみらい(北海道))があり、年に1度、農畜産物の産地間連携や農業の将来に向けて協議を行う「JAみらいサミット」を開催しています。

サミットでは、多様な分野での協力や交流活動の拡大・努力を惜みず、組合員のニーズを的確にとらえ、改革の目的でもある『農業所得の向上と地域の活性化』に結びつくよう、総力を挙げて取り組む」との宣言を採択しました。また、交流研修や販売フェアを通じて交流を深め、新たな発想や気づきを生み出す相互研鑽の場を設けており、昨年度は新宿にあるJA東京アグリパークにて、各JAの農畜産物や加工品を販売する「JAみらいサミット特産品フェア」を開催致しました。

また、本年のサミットよりJA山梨みらい(山梨県)が新たに加わり、9つのJAとなり、「みらい」のきずなはますます広がっています。

地域とともに

JAきたみらいは、北見市を拠点に活動する男子カーリングチーム「KIT CURLING CLUB」の活動を応援しています。「KIT CURLING CLUB」は北海道北見市で活動する社会人・学生で結成されたチームで、北見からオリンピック金メダル獲得を目指しています。

昨年9月には、チームメンバーの一人をきたみらいの職員に迎え、JA職員・カーリング選手として地域に密着した活動しながら共に地域の魅力を発信しています。



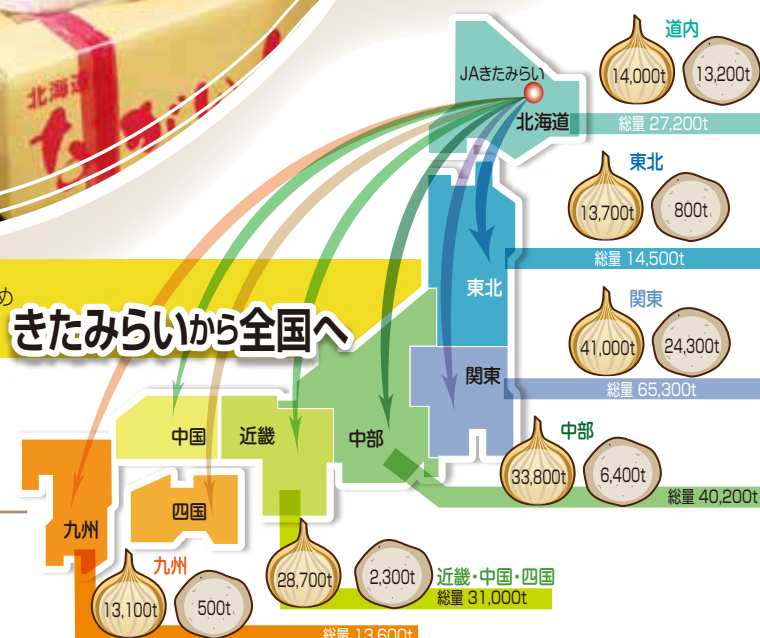
地域とのつながり



農業文化が育んだ、郷土色豊かな祭りや各種催事に積極的に参加し、地元消費者との交流を深めながら、地域農業の情報発信にも努めています。

毎年、夏に北見市で開催される「ぼんちまつり」では、組合員と役員がきたみらいの半被や浴衣で「舞踊パレード」に参加し、市民の皆様へJAをPRしています。

きたみらいから全国へ



生産量全国一の玉ねぎや道内有数の大産地となっているじゃがいもをはじめとして、きたみらい地域の農産物は全国の皆様のもとに届けられています。



- 全国一の玉ねぎ産地
- 8月～翌年6月までの長い期間全国の消費者の皆様へ安定的に供給するため、早くに出荷できる早生・中生・貯蔵性に優れた晩生など多くの品種を作付しています。



- 全国一のじゃがいも産地である北海道でも有数の生産量
- 男じゃくをはじめ、ポテトチップ用やサラダ用など用途に合わせた品種を作付しています。

情報を発信!

組合員向け広報誌、 コミュニティ広報誌

正組合員・家族との絆づくりに向けた広報誌「おひさまサラダ」を毎月発行しており、准組合員や地域の方々には、きたみらい地域の農業のサポーターになっていただくため、コミュニティ広報誌「ぐりんgreen」を年3回ほど発行しています。



全国へ情報発信

HPでは、営農情報をはじめ農畜産物の紹介や食育の取り組みなど、きたみらいのあらゆる情報を発信しています。また、きたみらいのFacebookページでは、毎週イベント情報や地域の情報、作物の状況など、身近でホットな話題を掲載しています。地元はもちろんのこと、全国各地の方からのコメントも多く寄せられ、皆様との「ふれあい」のツールとなっています。

よりよい
環境をつくる

農業と自然との共存を目指して

食を支える農業は自然に支えられています。
環境にやさしい農業を実現するため、環境
負荷軽減に努めています。

食の安心・安全 Ecoみらい

顔が
見える

声が
届く

価値を
伝える

商品づくり

消費者やユーザーと生産者が交流会を行い、
情報交換を行っています。また、販売促進活動と
ともに、地産地消の推進、食農教育活動を実施
し、地域への情報発信を行っています。

環境に配慮し独自の栽培基準を設定した、「Ecoみらいブランド」のたまねぎ、じゃがいもの生産に取り組んでいます。
商品のコンセプトは、「顔が見える商品」「声が届く商品」「価値を伝える商品」。
私たちは「農家の想いを消費者へ」「消費者の想いを農家へ」とつないでいきます。

項目	内容
1. 栽培基準	独自の栽培基準を設定し、環境に配慮した生産を行います。
2. 商品コンセプト	「顔が見える商品」「声が届く商品」「価値を伝える商品」を追求します。
3. 情報発信	消費者やユーザーと生産者が交流会を行い、情報交換を行います。
4. 販売促進	地産地消の推進、食農教育活動を実施し、地域への情報発信を行います。

JAきたみらい版の独自GAP(農業生産工程管理)手法を導入しています。
また、使用した肥料や農薬についての情報を、広く消費者へ提供することで、顔の見える商品づくりを行っています。

環境に やさしい農業へ

Ecoみらい

環境への負担を軽減するため、化学合成農薬、化学肥料の使用を北海道基準よりもさらに低減(20%~40%)しています。また、良い土をつくるために、堆肥や有機物を活用し、地力の向上に努めています。

玉ねぎ 83.90ha(58戸)

じゃがいも 63.62ha(33戸)

オリジナルの統一栽培基準をはじめ、取扱要領や現品検査基準もきたみらい独自のものを設定しており、こだわりの栽培法によるこだわりの商品として、消費者の方々へお届けしています。



化学肥料の使用にあたり、北海道の施肥基準よりも少ない量でも作物の為に必要以上使用しないよう畑の土のサンプルをとり、土壌診断を行って必要量のみの使用に向けて取り組んでいます。コスト低減はもちろんのこと、環境負担軽減にも努めています。

項目	内容
1. 土壌診断	化学肥料の使用にあたり、北海道の施肥基準よりも少ない量でも作物の為に必要以上使用しないよう畑の土のサンプルをとり、土壌診断を行います。
2. コスト低減	必要量のみの使用に向けて取り組んでいます。
3. 環境負担軽減	コスト低減はもちろんのこと、環境負担軽減にも努めています。

玉ねぎの 廃棄物利用

日本一の生産量を誇る玉ねぎの主産地として、きたみらいでは、玉ねぎをイメージしたオリジナルの制服を着用しています。

男性・女性総合職用の上着と女性用のブラウスには、玉ねぎのオニ皮から色素を抽出して染色した草木染色地を使っており、ズボン・スカートなどはそれぞれ、様々な作物が命を育む緑の大地を表現する濃緑色となっています。

玉ねぎをPRし、大量に出るオニ皮を染料として役立てる、環境に優しい取り組みの一つとなっています。



玉ねぎオニ皮



抽出染料

循環型農業

きたみらい地域には、玉ねぎやじゃがいも、てん菜、小麦など、畑に作物を作付している耕種農家や酪農(牛)を中心とした畜産農家など様々な農業経営の形態があります。

それぞれ必要な量以上は不要となる麦かんや堆肥などを相互利用することで、環境にやさしい農業に取り組んでいます。



クリーン農業 への取り組み

農業と環境との調和に配慮した「クリーン農業」では、より「安全・安心」な農産物を出荷するため、化学肥料・化学農薬を最小限または一切使用しない生産方法で栽培しています。生産者自らが様々な基準に基づき生産に取り組んでいます。

有機栽培

化学農薬・化学肥料を一切使用しないで栽培

9.90ha
5戸

特別栽培

基準に対し、化学農薬・化学肥料を半分に抑えて栽培

167.86ha 72戸
97.30ha 36戸

クリーン栽培

道で定められた基準を基に化学農薬・化学肥料を減らして栽培

64.48ha 20戸
178.15ha 39戸

平成30年実績

GAPへの 取り組み

GAPとは: GAP(Good Agricultural Practice:農業生産工程管理)。農業現場の「食品安全」「環境保全」「労働安全」「人権・福祉」に関する法令や規範を遵守し、各工程の実施、記録、点検及び評価を行い、継続的な改善を行う取り組み。

きたみらい訓子府地区GAP部会では、消費者が直接確認できない農産物の生産工程において、安全管理の「見える化」に取組み、2019年4月に13戸の生産者がJGAP団体認証を取得しました。

CSR経営の 基盤

豊かな社会を目指すJAとして

コンプライアンスの徹底はもちろんのこと、一人ひとりが社会的責任を全うし、透明性のある組織づくりを行っています。

第16回 きたみらい農業協同組合通常総代会

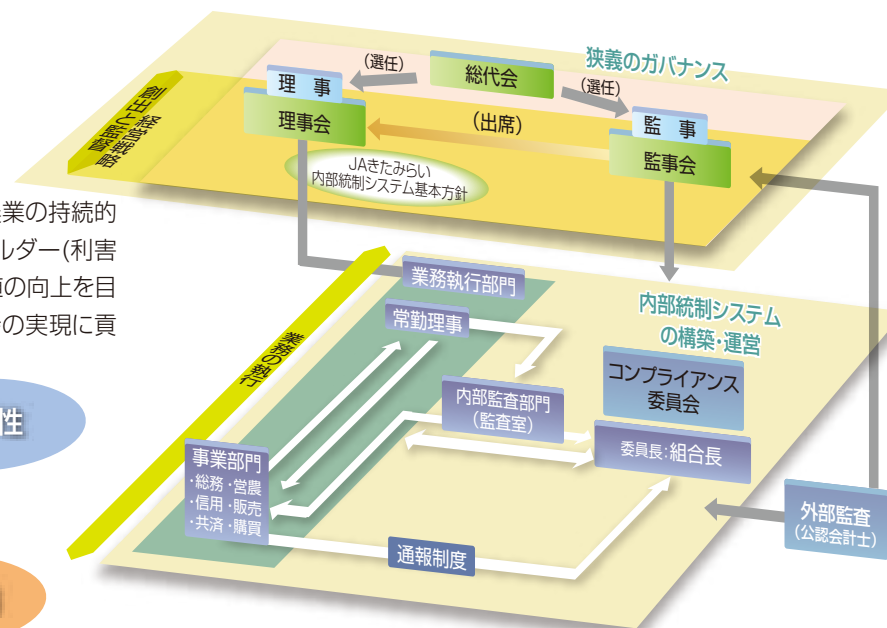


JAきたみらい コンプライアンス



コーポレート・ガバナンス体制

JAきたみらいでは、組織の社会的責任を果たし、地域農業の持続的発展と組織価値の向上を図るため、すべてのステークホルダー(利害関係者)の利益を尊重し、健全な業務活動を通じ、組織価値の向上を目標に、コーポレート・ガバナンス体制を構築し、豊かな社会の実現に貢献しています。



コーポレート・ガバナンス 及び 内部統制概念図

内部通報制度とJA広域ヘルプライン

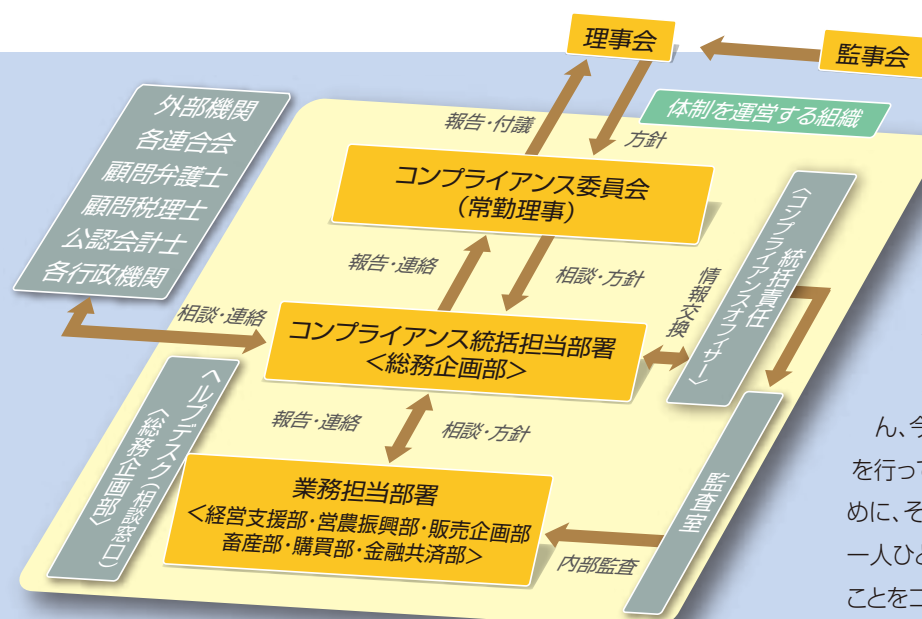
不祥事が発生しないようにするため、何か問題があった時は、直ちに経営トップに伝わる体制が必要です。職場の健全性を維持し、オープンな職場環境となるよう、当JAでは、自由に相談できる環境として内部通報の窓口を設置し、その補完として、JA北海道中央会相談センター内に系統共通の通報窓口として、「JA広域ヘルプライン」を設置しています。

個人情報の保護

事業活動を行っていく上で、個人情報の保護は重要な課題であり、JAきたみらいでは、「個人情報保護方針」「個人情報取扱規程」を制定し、全役職員に周知徹底し、確実に実行するとともに、内部監査等で実施状況の点検を行っています。

法令やルールを厳格に守ることにとどまらず、社会の構成員である1企業として、すべてのステークホルダー(利害関係者)の期待に応え、その信頼を得て社会的責任を全うすることを真のコンプライアンスとして経営の最重要課題と位置づけています。

“きたみらい”の コンプライアンス



コンプライアンス体系図

コンプライアンス研修

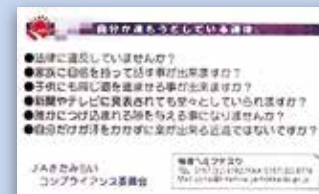
- 不祥事への対応
- メンタルヘルス
- コンプライアンス体制
- 農協の大義
- 報徳の精神
- 個人情報の取り扱いについて
- 情報セキュリティ

JAきたみらいでは、毎年、全役職員を対象としたコンプライアンス研修会を開催しています。コンプライアンス徹底に向けた意識を持つことはもちろん、今の農業情勢やJAの目指すものなど、幅広い内容で研修を行っています。組合員、地域に信頼されるJAであり続けるために、そして、企業に求められる社会的責任を果たすべく、職員一人ひとりが必要な知識を持ち、その教育・研修を継続的に行うことをコンプライアンス推進の柱としています。

コンプライアンス推進体制

推進基盤であるコンプライアンス委員会を定期及び必要に応じ開催し、日常業務における法令等の遵守状況のチェックを行い、JA全体のコンプライアンスへの取り組み強化を進めています。

また、職員一人ひとりにコンプライアンスに関するマニュアルと携帯カードを配布し、コンプライアンス推進に努めるとともに、全役職員がマニュアル遵守を誓約することで、コンプライアンスへの意識を喚起しています。



「コンプライアンス通信」の発行について

職場での啓蒙活動として「コンプライアンス通信」を発行しています。年に1〜3回程度発行しており、「身近なみについて」「道路状況に応じた安全運転」などの注意喚起や、「時間の活用」等、業務で役立つ内容も掲載しています。



コンプライアンス通信

人“財”
づくり

人と人との結びつきを大切にする、先を見据えた人づくり

人的結合が組織の特性であり、組合員・役員・職員が一体となった人づくりを行っています。



人材育成の基本戦略



- 人間性を高める人材育成教育を重視します。
- 一人ひとりの個性を尊重した人づくりを行います。
- 現状に安住することなく、積極性とチャレンジ精神を持った人材を育成します。
- 個性と能力に応じた処遇と適材適所の人材活用を図ります。

JAきたみらい人づくり基本方針について



将来を見据え、組合員・役員・職員が一体となって協同組合運動の再認識と実践をすることで、持続可能な地域農業発展のための礎を再構築していきたいと考えています。

人は現場経験から多くを学ぶことができますが、それだけでは成長に繋がることは難しいようです。現場での経験を振り返り、そこに「気づきを促進する研修」をあわせることで、より深い学習が形成されます。

このような仕事経験を通じた学習の考え方を「自ら学び、気づき、成長する」というスローガンに表現し、学習重視の人づくりを推進していきます。

組合員



作物別部会や青年女性組織等の自主的な学習活動を支援し、こうした組織活動への積極的な参加推進を行っています。

役員

信頼される人材作りと将来のリーダー育成、協同組合理念の再認識等、経営者として、組織・組合員のリーダーとして、様々な自己研鑽を図っています。

また、先進事例産地や消費地など、常に農業・農村を取り巻く情勢や動向に敏感に対応出来るよう様々な視察研修を行っています。

- 協同組合理念の再認識
- 率先垂範

人事管理

職員行動基本心得

1. 礼儀と礼節を守り、豊かな人間性の向上に努めます。
2. 常に謙虚な心で人の意見に耳を傾けます。
3. 情報収集力と分析力を磨き、時代変化に俊敏に対応し行動します。
4. 的確な判断力と相談対応力で組合員との信頼の絆を強めます。
5. 前向きな発想と創意工夫のチャレンジ精神で行動します。

人事制度

組合員の負託に応え、消費者に選ばれる産地であり続けるためには、職員一人ひとりの能力を最大限に発揮し、環境変化に俊敏に対応した取組が重要となります。

JAきたみらいは、様々な制度を構築し、職員が働きがいのある職場環境作りを実践しています。

面接制度

職員個々の能力特性の把握、職務遂行能力を長期的に育成するため、担当職員とその上席者が年に数回面接を行っています。

自己申告制度

1年に1度、自己の処遇やJAに対する意見などを述べる事が出来る機会を設けています。

複線型人事制度

高度化、専門化する業務の遂行にあたり、専門知識、能力、経験をもった職員に対し、その能力を積極的に発揮させると共に職員のライフスタイルに合わせたニーズに対応するための制度を導入しています。

職員

現場経験を通じ成長を実感できる職場環境

仕事を
通じた
経験

日常的な仕事経験
…OJTによる職務拡大・職務充実、適切なフィードバック
一皮むける経験

計画的
成長

自ら学ぶ

基本資格…特級・上級・中級・初級
専門資格…内部監査士・経営診断士・営農指導員
その他…業務上必要な資格・検定

自発的
成長

気づきを
促進する
研修

階層別研修…係長研修・課長研修I・課長研修II・部長研修
全 体…コンプライアンス研修
部門別研修…営農技術・経営 信用・共済部門企画・管理等

仕事を
通じた
成長

職位や経験に応じた階層別研修、担当部門に応じた部門別研修、また職員全体に対しての研修等、様々な研修機会を設けています。

成長を促進する学習・研修環境

目指す職員像

新採用職員研修を終えて

販売企画部企画開発グループ
十 亀 遥 (そがめはるか)
平成31年 入組



研修では入組前に農業配送実習・オホーツク新人研修、入組後に新採用職員研修・農家実習があります。農業配送実習では、初めて目にする農産物の数に驚き、慣れないながらも購買部の業務の経験をすることで改めて仕事への意識が高まりました。入組後の3泊4日の新採用職員研修では、北海道の同期職員と共にJAの仕組みや農業について学び、仲間と協同する大切さ、JAの在り方について学ぶことができました。

研修の中で最も感銘を受けた農家実習では、実際の現場に立ち農業に触れることで組合員の皆さんの苦勞や思い、作物の成長過程、方法を知ることができました。

私は以上の研修を通して、常に「組合員さんのために何ができるのか」を念頭に置き元気な挨拶と笑顔を大切にしながら、関わる全ての方に信頼される職員を目指したいです。

組織概要



- 名 称
きたみらい農業協同組合
- センター所在地
北海道北見市中ノ島町1丁目1番8号
- 代 表
代表理事組合長 西川 孝範
- 出 資 金
4,854百万円
- 組合員数
8,054名
(うち正組合員数 1,663名、うち准組合員数 6,391名)
- 組合員戸数
985戸
(温根湯68戸、留辺薬33戸、置戸86戸、訓子府275戸、
相内74戸、上常呂103戸、北見161戸、端野185戸)
- 職 員 数
380名(うち正職員数 263名)

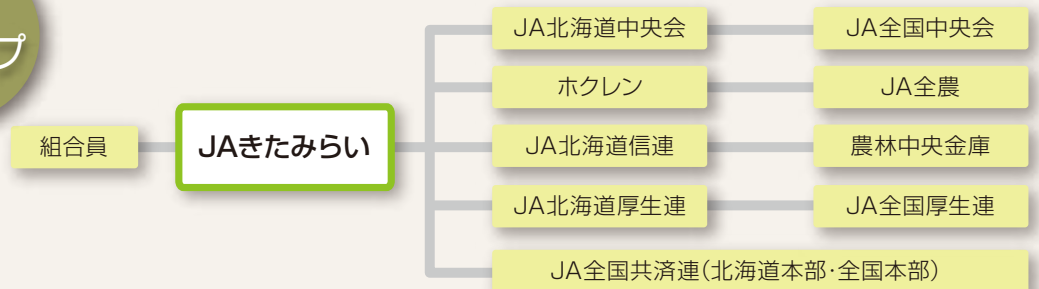
- | 沿 革 | |
|-------|--|
| 2003年 | きたみらい農業協同組合発足
(温根湯・留辺薬・置戸・訓子府・相内・上常呂・北見・端野) |
| 2004年 | 豆類乾燥施設施工 |
| 2005年 | 生産履歴記帳管理システム導入 |
| 2006年 | 第2次地域農業振興方策並びに中期経営計画
小麦乾燥調製貯蔵施設竣工
玉葱貯蔵施設竣工 |
| 2009年 | 第3次地域農業振興方策並びに中期経営計画
小麦乾燥調製貯蔵施設増設 |
| 2010年 | 哺育育成センター竣工 |
| 2012年 | 馬鈴しょ集出荷選別施設竣工 |
| 2014年 | 第4次地域農業振興方策並びに中期経営計画
生産資材拠点センター竣工 |
| 2018年 | 玉ねぎ冷蔵貯蔵施設竣工 |
| 2019年 | 第5次地域農業振興方策並びに中期経営計画
玉ねぎ集出荷施設竣工 |

働きやすい職場環境のために…ワークライフバランスの認定

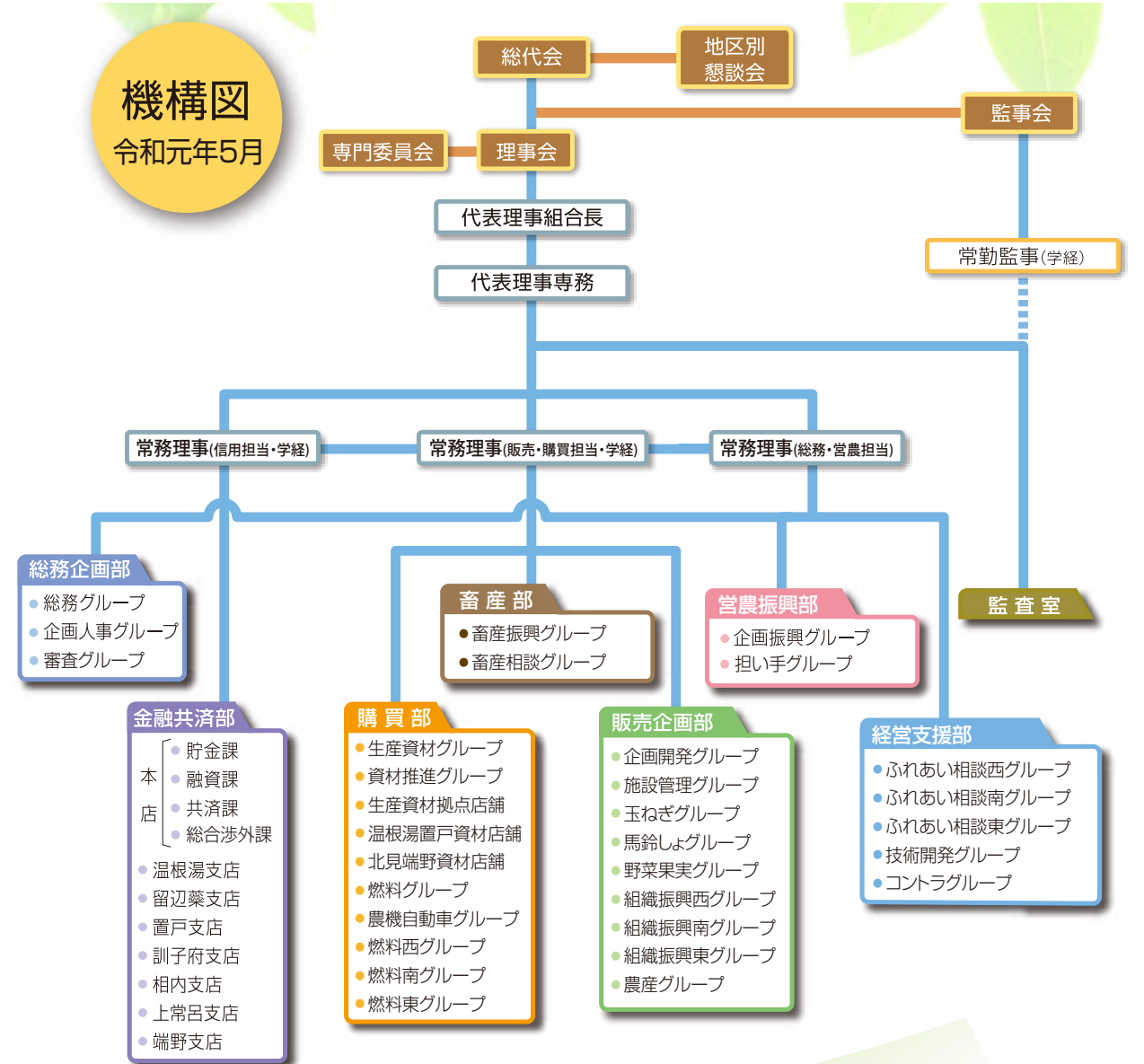
北見市では、男性も女性も性別にかかわらず、仕事と家庭生活(子育て・介護・地域活動・自己啓発など)の両立支援や男女がともに「いきいき」と働きやすい職場環境づくりなどに積極的に取り組んでいる企業に対して「きたみワーク・ライフ・バランス認定事業所」の募集をしています。その中で当JAは最高評価である第3ステージに認定されました。



JAグループ



機構図 令和元年5月



きたみらい地区



JAきたみらいの事業

JAの事業は農家組合員の営農サイクルに合わせた事業を展開しています。



営農指導事業

農家組合員が自主的に技術や農業経営など、営農に関わる内容や生活を改善するための協同活動を助言・支援する事業

営農振興部

- 行政等と連携した農業振興
- 補助事業等の実施業務
- 担い手支援
- 教育・広報活動

経営支援部・畜産部

- 「出向く営農」の実施
- 農畜産物栽培の技術指導
- 経営相談の実施
- 組合員窓口対応
- 総合的地域開発業務

販売事業

農家組合員が生産した農畜産物をJAが集荷し、付加価値をつけて販売するという事業

販売企画部・畜産部

- 作目別部会事務局
- 農畜産物の集出荷・選別・販売
- 販売戦略の構築・きたみらいブランドの確立
- 選果施設の管理
- 加工品の開発

購買事業

農業生産に必要な資材や生活物資を共同購入し、組合員によりよいものをより安く、安定的に供給する事業

購買部

- 「出向く購買」の実施
- 生産資材の安定供給
- 農業機械・車両の供給・修理
- ガソリン・灯油・軽油等燃料の供給

信用事業・共済事業

信用事業

組合員からの貯金を受入れし、これを組合員に貸し付ける相互金融によって、営農と生活の改善・向上をはかる事業

共済事業

くらしの相互保障活動として、くらしに生じる不時の災害、組合員及び家族の老齢化や家屋等の老朽化などについて損害の補てんや蓄えとして長期的にくらしの安定を図る事業

金融共済部

- 「出向く信用・共済推進」の実施
- 貯金の受入れ、引出しに係る窓口業務
- 融資の相談業務
- 共済契約者訪問活動
- 共済契約者の事故、入院等への対応
- 共済加入者の相談対応

管理部門

経営管理、活力ある健全な職場づくり、職員教育等、組織を支え運営していくための活動を行う

総務企画部

- 年次計画・決算・財務に関する業務
- 中期経営計画・人事・労務に関する業務
- リスク管理・コンプライアンスに関する業務

監査部門

経営目標の効果的な達成に役立つことを目的として、内部管理体制が適切か評価し、問題点の改善方法について助言・支援を行う

監査室

- 監査の実施・内部統制の有効性評価
- 内部監査による情報収集と業務処理の効率化にむけた提案指導
- 不正・不当事件の未然防止

平成30年度 JAきたみらいの主な作目の作付面積、生産量、畜産物取扱高

部門	区分	品目	面積(ha)	生産量(t)
農産	水稲	うるち玄米	38.5	176.4
		もち玄米	711.7	3,419.9
		水稲計	750.2	3,596.3
	麦類	春小麦	1,284.8	5,195.1
		秋小麦	4,100.6	24,956.3
		大麦	—	—
		麦類計	5,385.4	30,151.4
	豆類	大豆	603.7	1,595.1
		小豆	204.7	515.4
		金時	10.2	12.7
		虎豆	10.8	18.1
		大福	17.9	20.6
		白花豆	121.1	224.1
		紫花豆	55.9	82.6
		その他	24.1	69.0
		豆類計	1,043.4	2,537.6
	てん菜	てん菜	3,486.8	180,309.6
		そば	25.0	22.5
		そ	20.5	0.5
		薬草	1.0	2.6
		農産計	10,712.3	216,620.5

部門	区分	品目	面積(ha)	生産量(t)
青果	玉ねぎ	玉ねぎ	4,622.0	265,949.2
		馬鈴芋	1,408.2	43,084.3
		鈴子用	361.1	11,806.4
	加工用	加工用	470.6	17,010.2
		澱原用	3.1	135.8
		馬鈴計	2,243.0	72,036.7
	野菜	ほうれん草	3.0	34.0
		スイートコーン	402.0	4,504.6
		メロン	8.9	172.9
		白菜	20.6	1,374.9
		人参	49.4	1,375.4
		レタス	1.1	37.3
		ごぼう	7.2	116.8
		長芋	4.5	50.4
		イチゴ	0.4	0.5
	青果計	かぼちゃ	47.6	463.6
		赤玉ねぎ	112.8	5,747.2
		アスパラ	2.4	7.8
		ベコロス	11.5	271.9
		その他青果物	193.6	4,625.1
		野菜計	865.0	18,782.4
		青果計	7,730.0	356,768.3
		農産・青果合計	18,442.3	573,388.8

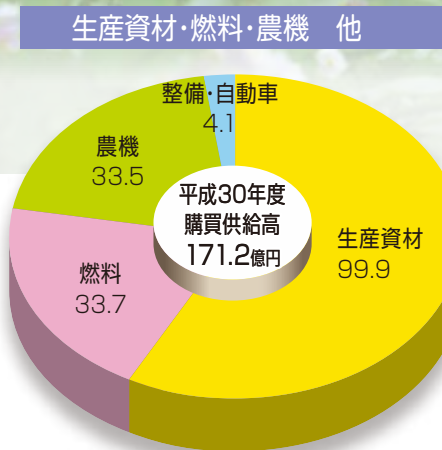
部門	区分	品目	数量(t・頭)
畜産	乳牛	生乳(t)	87,537
		育成牛	707
		初妊牛	876
		経産牛	397
		乳牛計(頭)	1,980
畜産	肉牛	初生トク	5,695
		素牛	2,563
		肥育牛	449
		廃用牛	1,440
		牛肉計(頭)	10,147
その他	豚	豚	412
		馬	21
		計(頭)	433

地域耕地面積(農産・青果・畜産)
24,848.5 ha

JAきたみらいの農産・青果・畜産取扱高品目別構成

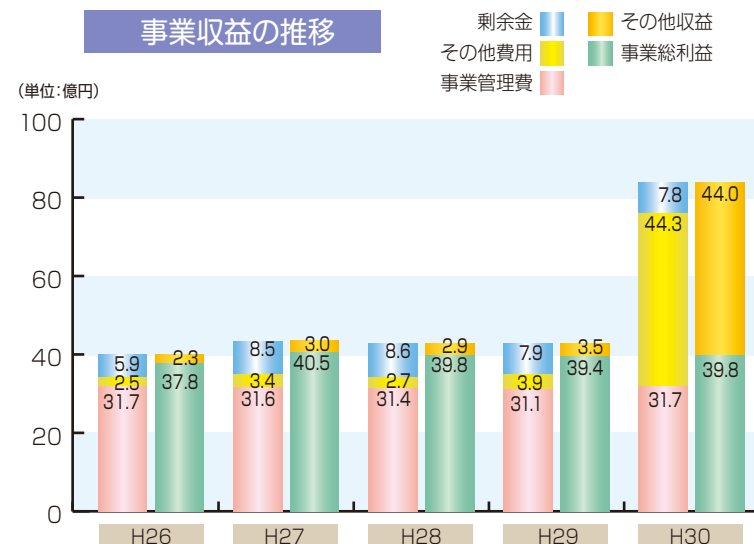


JAきたみらいの事業

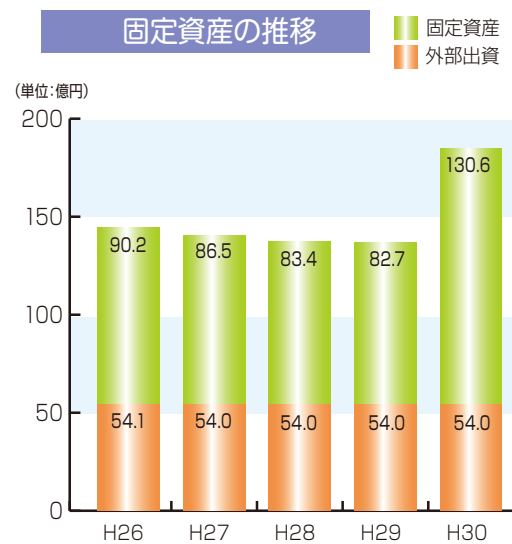


信用・共済事業 他

貯金	1097.8億円
借入金	5.6億円
貸出金	111.4億円
預金	971.9億円
短期受入共済掛金	8.4億円
長期共済保有高	2043.5億円
長期共済新契約高	176.4億円



※平成30年度事業収益推移には、新施設竣工に係る補助金の費用・収益計上を含む



単体自己資本比率の推移

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
25.01%	24.45%	26.22%	25.92%	24.27%

固定比率の推移

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
153.5%	166.6%	178.2%	182.8%	192.7%

(平成31年度1月末現在)

第三者意見

北海道大学大学院 農学研究院

教授 坂下 明彦氏



JAきたみらいにとって2019年は次期の地域農業振興計画を策定し、次の5年間にに向けて動き出す年である。CSRレポートにも、継続に加えて新たな取り組みを見つけることができる。「力強い農業のために」農協がすべきことの柱のひとつが販売力の強化である。販売力の強化は、生産から流通、販売の過程で価値を生み出していく「バリューチェーンの構築」が不可欠だ。JAきたみらいでは、生産段階における組合員の「部会組織」と農協の営農指導と連携があるが、それにくわえて新たに整備した玉ねぎの集出荷選別施設は、昨年整備した貯蔵施設、さらには馬鈴しょの集出荷施設とあわせて、農協の主力品目のバリューチェーンをより強固なものとしている。また、販売において「マーケットイン」という、市場で何が売れるのか、ということを中心とした商品作りの発想に基づいて、加工商品の販売、インターネットの販売、さらには地元菓子店との連携といった新たな取り組みに積極的に取り組んでいる。こうした取り組みは、地域住民にとっても農協をより身近に感じることができる取り組みとして、農協のサポーターづくりにもつながるものと期待される。

JAきたみらいの代名詞ともなっている「出向くサポート」は営農指導から始まり今や他の事業にも適用されて、農協と組合員を繋ぐ欠かせない取り組みとなっている。組合員、地域をトータルにサポートすることができるという総合農協の強みを生かすためには、組合員と日常的にふれあい、寄り添うことが必要になる。大規模な合併農協としてスタートしたJAきたみらいが、組合員とのつながりをしっかりと構築しながら農協らしい事業を展開していることは、これからの北海道の農協にとっても貴重な経験を提供することになるであろう。

おわりに一点、今後のさらなる取り組みを期待したい分野として豊かで魅力ある地域（農村）づくりを上げたい。次世代の農業の担い手が地域で豊かに暮らしていくためには、農業だけではなく農村での暮らしを豊かにしていくことが不可欠である。きたみらい管内も人口の減少、高齢化が進み、地域の未来を描くことが難しい状況となっている地域もある。一方で、都市部には農業、農村に魅力を感じている人たちが増えてきている。JAきたみらいには、そうした人々を農村に呼び込み、地域、農業を共に創っていく仲間作りにも期待をしたい。

略歴 1977年(昭52)北海道大学農学部卒業
1984年(昭59)北海道大学農学部助手
1990年(平2)農学博士(北海道大学)
1990年(平2)北海道大学助教授
2003年(平15)北海道大学教授

主な著書 『北海道農業の構造変動と地帯構成』2006年 北大出版会(共著)
『北海道の農地問題』1999年 筑波書房(共編著)
『中国東北における家族経営の再生と農村組織化』1999年 御茶の水書房(共著)
『大規模稲作地帯の農業再編』1994年 北大図書刊行会(共著)
『中農層形成の論理と形態－北海道型産業組合の形成基盤』1992年 御茶の水書房

